

3. 北川学術賞 選考結果

高野 研一 殿

2018 年度 北川学術賞 推薦状

高野研一氏は、1980 年に名古屋大学工学研究科原子核工学専攻博士課程前期を修了され、同年、電力中央研究所に入所し、以来、27 年間勤務されました。その間、事故の根本原因分析手法の開発、オペレータ認知モデルの開発と応用等の研究に従事され、多大な貢献をされました。1995 年に名古屋大学から博士（工学）を授与され、同年 4 月からは、英国マンチェスター大学応用心理学部に 1 年間派遣され、ジェームス・リーズン教授とヒューマンエラーの発生メカニズムに関する共同研究を実施し、帰国後関連して組織事故に関する研究に邁進し、訳書「組織事故」「保守事故」の刊行とともに、研究を本格化されました。高野氏が提唱した「安全文化の八軸」の概念は、電力業界を始め、化学業界など我が国の産業界に広く普及し、安全文化研究の基礎並びに現場での安全文化醸成に多大な寄与をされました。2005 年からは早稲田大学大学院の非常勤講師、2007 年からは慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授としてヒューマンファクターやリスクマネジメント等に関係する講義を実施するとともに、安全文化および組織文化の診断手法の開発を中心とした研究を進めてこられました。2014 年には慶應義塾大学「義塾賞」を授与され、2017 年には中央労働災害防止協会から「緑十字賞」を授与されております。

安全工学会での活動としては、1990 年前後から、安全工学会の経済産業省からの受託事業にも参画され、一連の受託研究を通じて、ヒヤリハットデータ収集システムの構築や安全文化の産業界への浸透と実践に深く関与されました。その他、現在の保安力向上センターによる保安力評価システムの原案作成にも貢献されました。このほか、2000 年前後から、普及委員会副委員長、理事を通算 4 期務めるなど安全工学会の運営にも大きな貢献をされました。また、2014 年からは通算 4 年に渡り、編集委員長を務め、学会誌の刊行と内容の充実を図られました。

教育活動としては、慶應義塾大学教授として多数の後進の指導を行うと共に、2005 年から 2011 年まで早稲田大学大学院理工学研究科にて非常勤講師として教壇に立ち、その他、産業界との共同研究も多数実施してこられました。また、安全工学会のセミナー講師の他、多数の講師・講演活動を通じて安全文化及びヒューマンファクターに関する知見の普及及び産業界の人材育成に努められています。

長年に渡る安全工学会を中心とした活動に加え、安全工学会誌への多数の投稿、社会的活動による産業界への貢献は顕著であり、学術の現場適用や実践への展開として模範となるものであることから、安全工学会の北川学術賞にふさわしいものであります。



略歴：

1980 年 3 月 名古屋大学工学研究科原子核工学修士課程修了
1980 年 4 月 財団法人 電力中央研究所 原子力部 入所
1995 年 1 月 名古屋大学より博士（工学）授与
1995 年 4 月 英国マンチェスター大学応用心理学部客員研究フェロー
1996 年 4 月 電力中央研究所 ヒューマンファクター研究センター上席研究員
2005 年 4 月 早稲田大学大学院 非常勤講師
2007 年 4 月 慶應義塾大学 先導研究センター教授
2008 年 4 月 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科教授就任
現在に至る